

相談室（3）

Q 今フクトの偏差値が50です。60まで伸びますか？

A 今の君は難しく感じるかもしれませんが、中学校の学習内容は実はそれほど難しいものではありません。

1ヶ月ぐらい本気でやれば、それが分かるはずです。

その1ヶ月をなんとしても乗り切れば、君の意志ならばあとは目指す偏差値まで行けるでしょう。今まであまり勉強していないようですから、余力も十分残っているはずです。

今までのバカだった（ごめんなさい、成績ではありません。考え方です）自分を心にしっかり受け止めて、上の連中をゴボウ抜きして下さい。

君は塾に通っていない、今時たくましい子のですから、その反骨精神で、自分ひとりでやるのも良いと思います。

学校でもらった副教材があるはずですから、まずはそれに絞って繰り返し繰り返し、完璧に仕上げると良いでしょう。

もちろん、学校の授業は考えながらしっかり聴いて下さい。

ただ、57、58あたりまでは順調に伸びるかもしれませんが、最終段階では少し苦しむかもしれません。

その時は、普通科を考えているのでしょうかから、無理をせずその学力で合格できる高校への進学を考えるのはどうですか？

60までもって行く努力は、高校へ進学してからの予備に取っておいて下さい。

あとは君自身の意志の問題、それだけです。

Q 子供に合った高校と言っているが、高校で通用するしないは、高校へ行ってみないと分からないのでは！？

A それが事前に判断できないような指導力では、この仕事は成り立ちません。

子供たちが志望校に合格する学力をつける、それも学習塾の大きな使命でしょう。

しかし、高校受験の場合は、子供たちの意志や適応能力よりも、周囲の大人の見栄や学習機関の利害が先行してしまうケースも多く、必然的に能力以上の無理な受験を強いられてしまうケースも少なくありません。

実際に、現場にいますと、県内のトップレベルの進学校を退学し、高卒認定試験（昔の「大検」です）を目指す子供たちをみることがあります。

また、普通科のシステムがいやなって退学し、再受験を志す子供たち、成績不振から高校を休みがちな子供たちをみることがありますが、ここ数年、こうした子供たちが益々増加しているようです。

彼らが高校を拒否した理由、その主因がどこにあるかを考えますと、単に

「意志が弱い」「高校で勉強しなかったから」

など、子供たちだけに押し付けるのは筋違いでしょう。

彼らの中には、自分を立て直そうと、精一杯頑張っている子もいますが、ほとんどは心身共に疲れきって、勉強どころではないケースが多いようです。

また、接していますと、やはりその高校内で思うような成績を取ることは能力的に無理であろうと判断せざるを得ない子がほとんどのように感じます。

結局、その子には合わない高校へ進学させてしまったこと、それが第一の要因でしょうし、その高校へ進学しなければ、もっと有意義な高校生活が送れたはずで、それを主導した周囲の大人や学習塾の責任は重いと言えるでしょう。

これは、高校を退学した子供たちから直接聞いた話ですが、有名進学校の場合、高校をやめるやめないの話になった時に、周囲の大人は、ほとんど

「もったいない」

「負け癖がついてしまう」

「行くだけでいいから」

などと言うそうですが、子供たちはその裏にある大人の浅はかな心理を読みとっています。

「〇〇高校卒」たったそれだけの名誉を得るために高校を継続し、その代償として、彼らの心がズタズタに破壊されてしまったら、さらに深いダメージを受けることになってしまいますし、無事に卒業できたとしても、その後の人生に決してプラスになるとは思えません。

レベルの高い進学校を卒業すれば必ず幸せな人生が待っているのであれば、私もそれに合わせるでしょうが、最近は逆のケースに接する機会が益々増えています。

特に、中学生を対象とする学習塾のほとんどは、有名進学校へ送り出す方向へと動いていますが、どこかでこの流れに歯止めをかけないと、また、高校進学段階で適切な指導をしてあげないと、適応能力をもった一部の子供たち以外は、みんな行き場を失ってまいります。

そうした事態を未然に防ぐためにも、その子に合った高校へ送り出す、それも学習塾が担うべき大きな務めだと考えます。

ただ、それをどこで判断するのかにつきましては、性格、また教科ごとの反応によっても違いますし、各高校のシステムも知っておく必要がありますので、ここでお伝えするのは無理であろうと思います。

Q 有名進学校の生徒ってお行儀が悪くありませんか？

A 皆が皆そうだとは言えないと思いますし、おごりもなく謙虚に生きている子供達もたくさんいますので、一部の生徒でしょう。

ただ、仰っています内容は、当たらずとも遠からずだと思う面もあります。

子育てでは、よく

「この子はこれと言ってとりえがないから、せめて礼儀作法だけでも・・・」

という話がありますが、彼らの中には

「自分には『勉強ができる』というとりえがある」

と思っている、だから礼儀なんて関係ないと思っている子も一部にはいるのかもしれませんが。

仰っています

「何か大人に対しても上から目線なんですよね～」

はその現れでしょう。

そして、この傾向は、地方に行くほど強いと思います。

有名進学校が比較的近距离に乱立している都市部と違って、地方ではポツンポツンと離れて点在している状態ですから、地域の評価を独占できてしまいます。

そのぶん、高校生とは言え、まだ子供ですから、評価に溺れる、それが、おごりやお行儀の悪さにつながっているのでしょう。

しかし、それは、高校名だけで安易に評価してしまう、周囲の大人の責任の方が大きいかもしれません。

「まあ～、〇〇高校なの！優秀ね！」

などと言われれば、普通は舞い上がるでしょう。

周囲の目がもっと厳しくなれば、彼らも少しは目が醒めるでしょうし、目的意識も高まるのではないかと思います。

Q 進学校をやめて高認試験を受け、一流大学への進学は可能か？

A 文面から、君の場合は、輝きを失った自分がそれを取り戻すための、周囲に向けたパフォーマンスのように感じられます。

人が輝きを放つのは、やはり継続的な努力の結果だと思いますし、行動だけで結果が伴わなければ、もう幼児の年齢ではありませんので、ただの愚行で終わってしまうでしょう。

高校に合わない判断する理由も、大学受験に対する批判も、すべて君の都合の良い稚拙な論理で組み立てられているように感じます。

年齢からすると君の葛藤もわからなくはありませんが、この際ですから、それを鎮める術も身につけたらいいのではないかと思いますよ。

今の高校で思うような結果が出ないのは、明らかに君の過信とそれから来る努力不足で、それを一番わかっているのは君自身でしょう。

難しいでしょうが、そこを素直に認め、今の高校で真っ向勝負し、結果を残す方がカッコいいと思いますよ。

最後になりますが、愚痴や言い訳はできるだけ避けるようにしましょう。

それが止まない間は、本気にはなれませんよ。